

5 令和8年度の主な食料・農林水産業・農山村施策

県では、農林水産業の振興に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、令和8年3月に「埼玉県農林水産業振興基本計画」を策定しました。

また、計画の目指す将来像である「近くておいしい、もうかる・つながる農林水産業・農山村」の実現に向け、各施策を8つの大柱に整理しています。

令和8年度に実施する、主な取組をご紹介します。

1 ニーズに応じた農林水産物の供給と高付加価値化の推進

消費者や実需者のニーズに応じた良質かつ安全な農林水産物の供給を実現するため、県産農産物の高付加価値化、生産性の向上を推進し、生産、流通、販売等の体制を整備します。

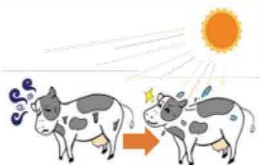
主な事業 次世代へつなぐ！県産牛生産強化事業

暑熱に強い乳牛への改良や特徴ある県産和牛肉の生産を推進し、加えて埼玉県秩父高原牧場を本県が推進する牛の素牛供給拠点として整備します。

また、同施設内の彩の国ふれあい牧場におけるふれあい体験の拡充やバーベキュー場を整備することで、県産畜産物のPRを図ります。

県産乳牛・和牛生産強化事業

- 暑熱耐性牛の精液を配布し、暑熱ストレスによる乳量低下が少ない乳牛への改良を推進します。
- 県産和牛肉の価値向上のため、認証基準やブランディング戦略を策定し、霜降り以外のおいしさに着目した和牛の生産を推進します。
- 秩父高原牧場において、上記の牛の育成に必要な牛舎の改築及び哺乳ロボットの導入を行います。



ふれあい牧場を活用した県産畜産物のPR

- 新たに子牛とのふれあい体験や哺乳体験などを実施することで畜産業への理解醸成を図ります。
- 標高600mからの景観を生かしたバーベキューコーナーを整備し、和牛肉など県産畜産物を提供します。



イメージ写真

主な事業 埼玉県活樹推進プロジェクト

「伐って・使って、植えて、育てる」森林資源の循環利用により森林の有する多面的機能の持続的な発揮を図るため、森林資源の活用や木材の利用拡大を図る「活樹」を推進します。

移動木造応急住宅の整備

▼新たな県産木材利用モデルとして発信



平常時は会議室等として利用

構造材等に県産木材を使用

トラックに積んで被災地まで運搬し、仮設住宅として利用

新たな流通体制の実行性調査等

▼新たな流通体制の構築に向けた調査及び事業構想の立案

新たな流通体制の整備例（イメージ）



①丸太の集積地

②多様な需要に対応する製材品保管場



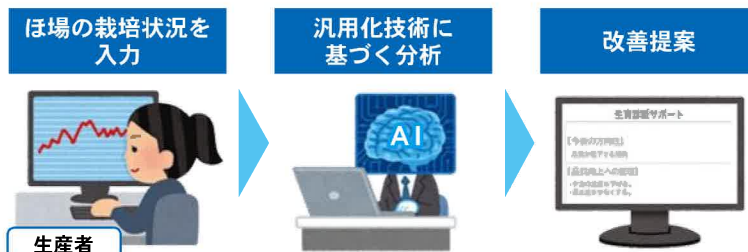
③丸太集荷から製材品加工・配送まで一貫して行う木材コンビナート

2 イノベーションの促進

先端的な情報通信技術等を活用したスマート農林水産業の促進により、作業の省力化や効率化を図るとともに、経験や勘として培われてきた技術・知識、作業実績、作物や環境等の状況及び経営データの「見える化」を進め、生産性の向上を目指します。

主な事業 埼玉県 AI いちご品質向上モデル開発事業

県育成品種「あまりん」の品質を高位・安定化し、県いちごブランドの長期確立につなげるため、AIを活用した高品質栽培を可能とする汎用化技術の確立と、生産者のほ場に応じた改善提案ができるシステム開発に取り組みます。併せて、「あまりん」の高品質栽培モデル研究体制構築に向けた研究用ハウスを農業技術研究センター久喜試験場に整備します。



主な事業 スマート農業の推進

新たな農業技術を活用することにより、本県農業における「省力化」「効率化」「見える化」を進め、スマート農業を実現します。



主な事業 スマート林業の推進

林業従事者数が減少し、施業集約化が困難となる中で、林業を維持・発展させていくために、ICT技術を活用し、森林簿情報の精度向上を図るとともに、森林クラウドシステムで森林情報を一元管理し市町村や森林組合などと共有することで、データ提供の効率化を図り、生産性の向上を目指します。



3 優良農地の確保及び有効利用

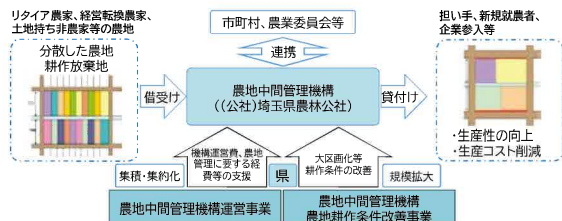
優良農地を活用した収益性の高い農業を実現するため、農業生産の基礎となる優良農地を確保するとともに、農地中間管理事業等を最大限に活用することにより、担い手へ農地を集積・集約化し、農地の有効活用を図ります。

主な事業 農地中間管理事業の推進

農業の生産性向上と農地の有効活用を図るため、担い手への農地の集積・集約化を行う農地中間管理機構（以下「機構」）の運営や、機構が実施する畦畔除去による区画拡大、用排水路の改修など農地の集積・集約化に必要な耕作条件の改善を支援します。

農地中間管理機構運営事業

- 機構の person 費、事務費等の補助
- 機構が借受けた農地の管理費等を補助



農地中間管理機構農地耕作条件改善事業

- 畦畔除去、均平作業等による区画拡大、更新を要す道水路等の整備



4 生産基盤の整備

収益性の高い農業を実現するため、ほ場整備の推進、農業水利施設の保管理、農業用ため池の防災・減災対策等を推進し、農業の生産性向上と被害の未然防止を図ります。

主な事業 農業生産を支える基盤の整備

農地の大区画化等により農業生産性の向上と営農条件の改善を図り、農地の利用調整による経営規模の拡大や高収益を目指す農業経営体の育成を促進します。また、農業水利施設の整備により用水不足や排水不良を解消するとともに、農業用ため池の耐震化と計画的な保管理を推進し、自然災害の未然防止を図ります。

担い手を育む農地の整備

ほ場整備事業

- 農地の大区画化
- 耕作道路を拡幅



農業水利施設の整備

農地防災事業

- 老朽化した農業用ため池等の整備



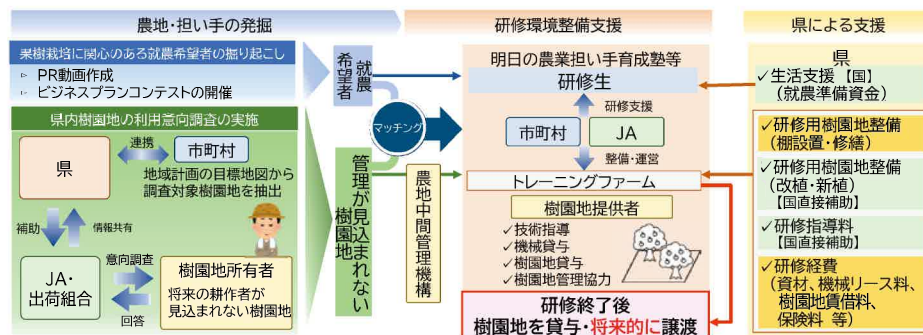
5 経営力の向上と多様な担い手の育成及び確保

優れた経営力のある農林水産業の担い手を育成・確保するため、農業経営の法人化や林業経営体の経営改善等を通じて農林漁業者の経営発展を促します。

主な事業

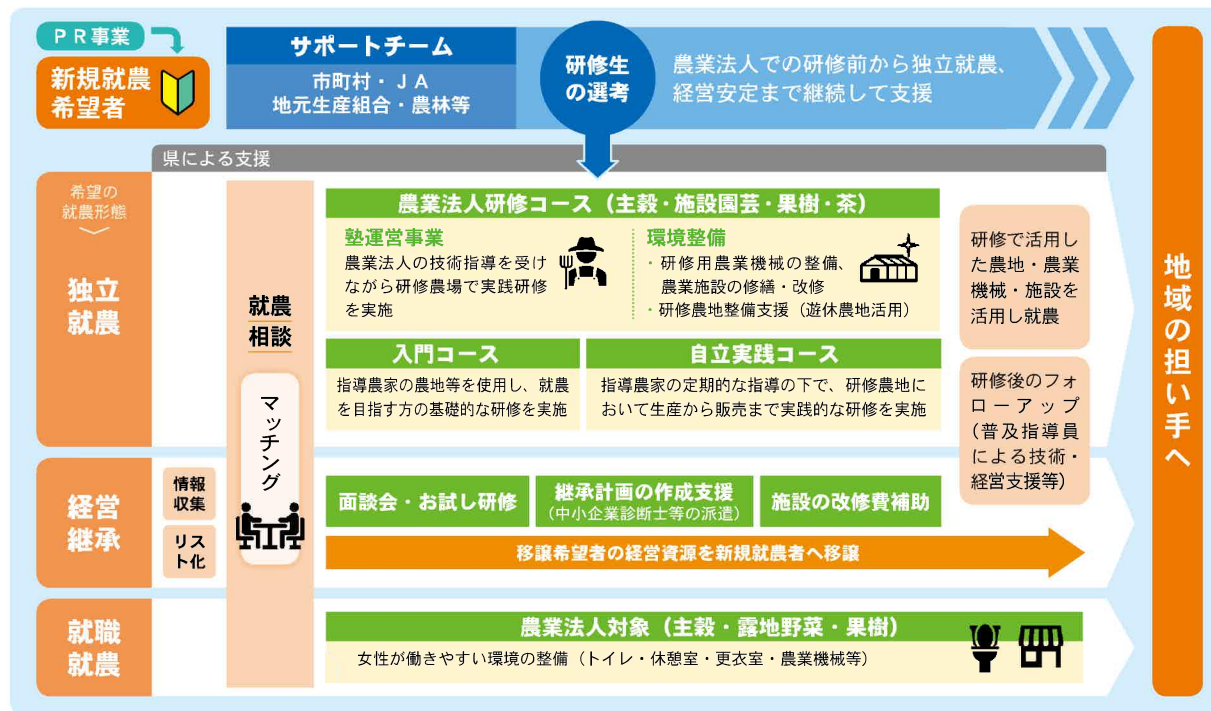
果樹新規就農円滑化事業

果樹栽培に必要な技術習得や円滑な就農を支援する体制を整備し、継続的に新たな担い手を育成・確保することにより、本県の果樹生産の振興を図ります。



主な事業 頑張る新規就農者応援事業

県農業の維持発展に必要な担い手確保に向け、就農相談窓口の設置や、県と市町村、農業協同組合、農業委員会等関係機関が一体となり、新規就農希望者の確実な就農を支援する体制を整備し、独立就農に向けた実践的な研修を行う。また、第三者経営継承を担い手確保の新たな手段として位置づけ、経営基盤やノウハウ等経営資源の継承希望者への円滑な継承を支援するとともに、女性の就農を促進するため、農業法人等による女性が働きやすい環境の整備を支援する。



6 災害等のリスクへの対応

自然災害、感染症、高温、鳥獣被害、家畜伝染病、病害虫等の農林水産業を脅かすリスクに対応し収益性の向上にもつなげていくため、災害予防、危機管理体制の強化、セーフティネットの普及等を推進します。

主な事業 イネカメムシ広域防除促進事業

水稻の害虫であるイネカメムシの被害防止のため、農業者に対し防除意識の啓発を行うとともに、県内各地の発生状況を把握し、地域の発生状況に即した防除の実施を促します。

また、効果の高い広域防除に取り組む団体や農業法人に対して必要な費用の一部を助成します。

意識啓発

イネカメムシの防除対策を農業者に呼び掛け、防除意識の啓発を行います。



発生状況の把握

目視及び予察灯の調査により発生状況調査を充実させ、地域の発生状況に即した適切な防除の実施を促します。

広域防除体制の強化

イネカメムシの広域防除に取り組む団体等に対して必要な費用の一部を助成します。



広域防除が実施され、イネカメムシの被害が軽減、米の収量・品質を維持

主な事業 サステナブルな農業水利施設保全対策事業

県が造成した農業水利施設について、施設管理者が紙媒体で保管している完成図書などの資料を収集・整理しデータベース化することで、農業水利施設の情報基盤を構築し施設の適切な保全を図ります。



県から管理者へ譲与した完成図書類の保管状況例



紙媒体で保管されている台帳類や図面



資料・情報のD X化

7 農山村振興と住民の多様な関わり創出

魅力ある農山村の振興を図るため、農山村における生活環境の整備や、農山村の地域資源を活用した所得と雇用機会の確保を促進します。

主な事業 人・森・川つなぐ未来事業

豊かな川でつながる山村と都市が協力して森林を守り育て、未来へ繋いでいくため、森林資源の循環利用等を進める「活樹」の重要性に対する県民意識を醸成し、「活樹」にかかる継続的な推進と拡大を図ります。

「活樹」活動の推進

▼森林の循環利用の理解を図る活樹イベント



記念植樹地整備

▼健全な森林を育て未来へ引き継ぐ植樹地の整備



「伐って・使って、植えて、育てる」森林の循環利用が県民に理解され、健全な森林を育て未来へと引き継ぐ

主な事業 見沼代用水開削 300 周年記念事業

令和元年に県で初めて世界かんがい施設遺産に登録された見沼代用水は、令和 9 年に開削開始から 300 周年を迎えます。見沼代用水が持つ食料生産に果たす役割や重要性、歴史的・技術的価値を県民共有財産として理解を深め、300 周年記念の機運醸成を図るため、広報活動を実施します。

令和 9 年に開削開始から 300 周年を迎える見沼代用水



見沼代用水かんがい区域

桜並木が美しい原形保全区間

プレイベントの開催

令和 9 年の見沼代用水開削 300 周年の機運醸成を図るため、見沼代用水沿線の市町のイベントとコラボしたプレイベントを開催します。



イベントイメージ

広報活動の実施

見沼代用水をはじめとする農業水利施設への理解を深めることや、歴史的・技術的価値を周知するため、県内各地の農業関連イベントに参加し、パネルの展示等広報活動を行います。

8 環境負荷低減の推進と多面的機能の発揮

農林水産業の生産活動等に由来する環境負荷を低減するとともに、カーボンニュートラルに向けて、農林水産業に由来する温室効果ガスの排出削減、森林の温室効果ガスの吸収・貯蔵機能の向上、農山村バイオマスの有効活用などの取組を促進します。また、農林水産業・農山村の多面的機能の発揮のため、地域の共同活動による水路や農道などの維持管理・保全を図ります。

主な事業 埼玉みどり戦略推進事業

食料の安定的な供給に向け持続的な農業を実現するため、農業者の環境負荷低減事業活動を支援し、普及を図ります。

環境への負荷を低減した農業の普及促進

環境負荷低減事業活動の取組の紹介・支援

【化学肥料、化学農薬削減例】



堆肥の施用



カバークロップの作付

【温室効果ガス削減例】



バイオ炭の施用

優良事例の発信



埼玉・農のエコロジーアワード

みどり認定制度の普及

環境負荷低減事業活動に取り組む農業者の計画を認定

（日本政策金融公庫の無利子融資の利用要件の一つ）

持続的な農業の実現（⇒食料の安定供給、地球温暖化対策、SDGs への貢献）